

ふるさと探訪

[32]

「綾部中学校の正門はどこにあるか？」と聞かれ、即答できる人は意外に少ないのではないかと。特に新校舎になってから学んだ人にはその傾向が強いようだ。記者も卒業生であり、さらに仕事柄よく訪れてもいるが、問われて一瞬考えてし

綾部中学校の正門

50年、子らの成長見守る

創立時から残る数少ない施設

移転され看板新調

生い茂っているが、当時の正門から校舎へ向かう途中の石段もある。

綾部と吉美、中筋の一町二村の組合立として開校した綾部中は、その後、様々な変遷をたどる。当時「八幡平」と呼ばれていた現在の校地選定をしたのは時の長岡誠・綾部町長。最初に建てられた校舎は、舞鶴

部中学校線沿いに引越した。綾部中は昭和二十四年、宮代町の現在地に建設された。当時から現存する数少ない施設の一つがこの正門の門柱。ほかには、今ももう使用されなくなり雑草が

の旧海軍施設からの払い下げの資材などを使った木造二階建て一棟だった。本館や体育館、教室棟などの第二、三次工事も進み二十五年には何鹿郡組合立綾部中学校に。三十六年には、唯一の鉄筋コンクリート造りである体育館（現在の第一体育館）が新築された。さらに五十五年からは

かし、新しい校舎が出来上がるころに、相前後して全面などから石段が使われなくなり、さらに、校内であった坂道も市道（明知町線）に編入されるなどしたことで、次第に生徒たちの通学路からは外れていった。

市教委によると校舎改築の時、「役割を果たせる所

老朽化してきた校舎の全面改築が始まり、五十八年に完了。平成四年には新たに第二体育館も建設され、現在に至っている。

学校の「顔」と言えば、当然のことだが正門のある所。綾部中も当初は、正門から坂を登って石段を上がった校舎にたどり着くルートがメインだったようだ。し



移転された現在の正門。これより奥は当然のことながら校内となる(宮代町で)

で建てられた。さらにこれを機に「綾部市立綾部中学校」と書かれた看板も新調された。

学校創立当時から生徒たちを見守ってきた一對の門柱。裏面には「綾部中学校建設記念 起工昭和二十三年八月 竣工昭和二十五年

七月」といった文字も刻まれ、昔をしのばせる。設置場所は変わったが、長く風雪に耐えてきた表面を少し「化粧直し」したことで、これからも子らの成長を温かく見守ってくれるに違いない。



約40年前の正門から校舎を見た写真。石段も見える(綾部中創立50周年記念誌から)